

梅乃宿酒造株式会社

要職に外部の経験豊富な人材と古参社員をバランスよく配置 組織体制の整備が進み、新たな事業展開に弾み

事業内容

日本酒で培ったノウハウを活かした梅酒づくり 海外へも販路拡大

1893年(明治26年)の創業で、120年余りの業歴を有する日本酒製造業者である。奈良県の葛城山の麓に酒蔵を構え、大和の地酒を長年にわたり造り続けてきた。

当初は、京都の大手日本酒メーカーの下請もしつつ、地酒としての日本酒づくりを行っていた。しかし、昭和50年以降、日本酒の出荷量が減少し始め、自社製品(自社ブランド)づくりに目を向けざるをえなくなった。更には蔵人の高齢化や日本人の生活スタイルの変化に合わせ、地酒蔵としての変革を模索し続ける中、平成16年に日本酒仕込みの梅酒を造り始めた。少量から生産を始めたものの、好評で増産を積み重ねてきた。

現在、純米大吟醸をはじめとする梅乃宿ブランドの日本酒に加え、梅酒をはじめとするリキュールも生産している。直接全国の地酒専門店や業務店に販売されているほか、アメリカ、香港、台湾など世界20か国以上で販売されている。



梅乃宿のお酒 定番商品

外部人材活用・人材投資に注力した背景

要職にも積極的に新しい風を取り入れる 外部人材でも実力を発揮しやすい企業風土

現在会長となり、一線を退いた吉田氏の経営スタイルは、新しいことを積極的に取り入れ、海外にも自ら市場視察に赴く行動派であった。社長に権限を集中させるのではなく、権限はできるだけ各担当に任せるといったスタンスを取っていた。その影響もあり、先代の頃から外部から同社に入社する従業員も、力を発揮しやすい環境、土台は整っていた。

現在、代表を務める吉田佳代氏は大学卒業後、大手商社の総務部にて働き、給与体系、福利厚生といった企業の中での働きやすさについて多くの実務経験を積んでいた。同社の代表に就任後は、社内の働き方の改革を行い、育休・産休や福利厚生制度の充実を図っている。

そのような環境整備を経たのち、外部人材も積極的に採用し、現在では外部人材と古参社員がバランスよく要職に就き、同社を支えている。1人目は、取締役・営業部長である。およそ15年前、販売に苦心していた時期に営業のプロフェッショナル人材として中途採用した人材である。梅乃宿としての営業スタイルの確立と営業組織の構

築に大きく貢献し、現在は取締役として海外戦略にも携わっている。

2人目は、大手家電メーカー出身の課長である。それまで個人の能力に任せていた商品管理部門の仕組みづくりに始まり、組織化だけでなく人材育成も含めた部門全体のボトムアップに貢献した。

また、2017年4月には銀行出身の管理部長を採用し、投資・資金調達の場合だけでなく、事業のさらなる成長を目指す中、管理・間接部門の強化に向け活躍が期待される人物である。

適所に外部経験豊富な人材を据え、さらなる成長を追求するための体制を構築している状況にある。



五代目蔵元 吉田 佳代 氏

梅乃宿酒造株式会社

〒639-2102 奈良県葛城市東室27
TEL: 0745-69-2121 FAX: 0745-69-2122
<http://umenoyado.com>

〈代表者名〉 吉田 佳代
〈創業年月〉 明治26年
〈資本金〉 30,000 千円
〈従業員〉 53人
〈業種〉 日本酒、梅酒、その他リキュールの製造販売

外部人材活用の成果と今後の展開

新旧様々な人材が事業を牽引 日本酒業界に新風

新旧様々な人材が活躍できることで、人事制度面、販売面、今後の設備投資計画の面で大きな進展が見られる。

人事制度面では、整備が遅れていた育休・産休・有休、福利厚生の制度が大手企業と比較しても見劣りしない水準となり、働きやすい環境が整備された。また、ここ最近では、業績と賞与が連動する仕組みを新たに取入れた。具体的には、経常利益の1割を従業員に決算賞与として還元するようにしているため、従業員の頑張りに酬いることができるようになった。社員の士気も以前より高くなっており、設備投資の必要性から利益創出のアイデアまで経営者目線で考えることができる社員が増えているという。

販売面では、海外での販売を増やしており、これまで販売実績が十分でない国に対しても積極的にアプローチしている。さらに、販売基盤が整いつつあったアメリカには、今年(2017年)の9月から「UMENOYADO USA」を立ち上げ常駐スタッフを置き、販売に本腰を入れている。先代の時から進めてきた海外販路開拓が徐々に実りつつある。

今後の設備投資計画の面では、これから必要となる投資を自己資金ベースでできるように内部留保の蓄積を進めている。酒蔵の増設、改築、移転、様々な設備投資のオプションがテーブルに用意されている状況にあり、タイミングを見計らっている。財務面に重点を置いて考えることができる人材を登用できたことも奏功している。

今後については、従業員一丸となって、新たなアイデアを出しながら、生産の効率化、新商品開発、マーケティングの高度化を図っていく方針に変わりはない。ただ、既存分野だけでなく、新分野への進出も視野に入れている。酒類の業界だけに捕らわれるのではなく、全く新しい可能性への挑戦も既に始めている。こういった挑戦ができるのも新旧、男女、年齢関係なく力を発揮しやすい風土がベースにあるからこそであり、様々な人材の活躍が次の伝統を造り出そうとしている。

既存の枠に囚われない新しいスタイルで、日本酒業界に新風を吹き込んでいく。



四代目蔵元 吉田 暁 氏、五代目蔵元 吉田 佳代 氏



120年余りの歴史がある奈良の酒蔵「梅乃宿酒造」